

# 中国語会話モジュールと CEFR の関連づけの試み

曲 明

(東京外国語大学大学院博士後期課程)

## はじめに

本稿は CEFR (Common European Framework of Reference)<sup>1</sup> の枠組みを利用して、TUFS 言語モジュールの一環として開発された中国語会話モジュールの会話文キーセンテンス 84 文に対し、レベル分けを試みるものである。

TUFS の中国語会話モジュールの開発は、言語の持つ「機能」に焦点を当てて行われた経緯があり、現在公開されている会話モジュールの会話文には、学習者がこの教材に取り組む際の指標となるレベル分けがなされていないのが現状である。今回 CEFR の基準と照らし合わせ、中国語会話モジュールの会話文キーセンテンスのレベルを分析していくことによって、この CEFR という枠組みの中国語会話モジュールへの応用可能性について考察することとする。

## 1. 中国語会話モジュールの概要

中国語会話モジュールとは、TUFS 中国語言語モジュールの 4 つの「モジュール」のうちの 1 つであり、スキットを素材とした日常会話の教材である。中国語会話モジュールでは 40 の機能を設定している。また、それぞれの機能を実現しているキーセンテンスを中心に 10 前後の会話文でひとつのユニットを形成している。総例文数は 446 個、そのうち、キーセンテンスは 84 個である。日本で中国語を学ぶ大学生に向け、動画・音声も利用したマルチメディア教材である。(阿部、2004) 「教室用」の、と「学習者用」の 2 部分があり、今回の分析対象となったのは「教室用」部分の 84 個のキーセンテンスである。

## 2. レベル設定

### 2.1 CEFR の枠組みの再考察

今回の研究対象である中国語会話モジュールは初級者向きの教材である。CEFR では 6 段階のレベル (A1、A2、B1、B2、C1、C2) を設定しているが、各レベルの能力記述を概観すると、中国語会話モジュールの各文は、大体 A1 から B1 にレベル付けされることが予測される。従って、本研究では、A1、A2、B1 の 3 つのレベルに、中国語会話

<sup>1</sup> CEFR とは、2001 年に Council of Europe が外国语教育のシラバスやカリキュラムのガイドラインや試験、教科書の向上のために一般的な基準を与える目的で、作られたヨーロッパ言語共通参照枠である。

モジュールの40機能の84キーセンテンスを分類することとする。

CEFRのレベル設定をそのままTUFSの中国語会話モジュールに応用することは、学習環境や目標言語の違いという理由から、難しいと考えられる。従って、CEFRでのレベル設定の記述を参考に、中国語会話モジュールに応用した場合、レベル設定に他の考えられる要素（文法構造、内容、語彙など）も取り入れて、調整する必要があると思われる。

## 2.2 中国語会話モジュールのレベル設定

キーセンテンスのレベル分けに関する要素はCEFRでのレベル設定の記述（機能中心）以外、文法構造の難易度、内容の難易度、語彙の難易度などが考えられる。以下、上述要素に対して、レベル設定の仕方について説明する。

### 2.2.1 機能難易度の規準設定

CEFR能力記述から言語行為の目的、機能、話題、場所、語彙等に関連する事項を抜粋し、機能難易度レベル（A1、A2、B1）の規準にした。具体的な内容については、「中国語会話モジュール40機能キーセンテンスのレベル分け表」（P5～）を参照。

### 2.2.2 文法構造難易度の規準設定

HSK<sup>2</sup>試験、「中国語検定試験」<sup>3</sup>の受験手引きを参考にして、文法難易度の規準を設定した。具体的に高い合格級に要求される文法現象を用いたキーセンテンスを高いレベル（B1）に入る。低い合格級に要求される文法現象を用いたキーセンテンスを低いレベル（A1）に入る。当てはまらないものに関しては、筆者の中国語指導経験を生かし、主観的に判断をした。

### 2.2.3 内容難易度の規準設定

内容難易度の構成項目は以下の二つの項目を設けた。①話題。つまり日常的なことが話題か、社会的あるいは公的なことが話題かという視点である。②場面、パワー関係などによって変わる言葉遣い。つまり、公的場面、上司に使う言葉遣いなのか、私的場面、身近な人に使う言葉遣いかという視点である。

今回のキーセンテンスは初級レベルの文であるため、ほとんどの話題が私的場面、身近な事柄と判断できるものであった。また、場面、パワー関係によって変わる言葉使いの変化も2ヶ所しか見られなかった。（「中国語会話モジュール40機能キーセンテンスのレベル分け表」を参照）2ヶ所の言語機能とも習得しやすいものであり、今回のレベル分けに影

---

<sup>2</sup>HSKとは、中国の教育部（日本の文部科学省に相当）が設けた「漢語水平考試」の発音のピンイン表記（H a n y u S h u i p i n g K a o s h i）の3つの頭文字の略称で、中国語を母国語としない中国語学習者のための唯一・公認の中国語能力認定標準化国家試験である。

<sup>3</sup>財団法人「日本中国語検定協会」による20年を超える歴史と実績を持つ検定試験。中国語学習の成果を総合的に測定する。受験者が増加中で、企業の注目度も高い。

響しないことと判断した。従って、今回のレベル分けには、内容の難易度による影響はなかった。

#### 2.2.4 語彙難易度の規準設定

HSK 試験、「中国語検定試験」の受験手引きを参考にして、語彙難易度の規準を設定した。具体的に高い合格級に要求される語彙を使ったキーセンテンスを高いレベル (B1) に入れる。低い合格級に要求される語彙を使ったキーセンテンスを低いレベル (A1) に入れる。当てはまらないものに関しては、筆者の中国語指導経験を生かし、主観的に判断をした。

### 3. レベル分析

#### 3.1 分析方法

2.2 の作業を通して作られたレベル設定規準に基づいて、40 機能のキーセンテンスを A1、A2、B1 にレベル分けをした。

CEFR 能力記述以外にレベル分けする際、影響された要素、本稿では、語彙と文法のみ扱った。その具体的な内容について、「特記事項」に記した。

#### 3.2 分析対象

レベル分析の対象は各機能を実現しているキーセンテンス 84 個である。

#### 3.3 分析結果

##### 3.3.1 中国語会話モジュールキーセンテンスの機能とレベルの関係について

以下の表に示されるように、A1 に分類されたキーセンテンスは、そのほとんどが定型表現となっている。中には「妥協する」「許可を求める」のような CEFR によれば、高いレベルと思われる機能のキーセンテンスも含まれていた。中国語では、上述のような機能でも、殆ど定型表現のような表現で実現されているので、CEFR の能力記述と違って、A1 に入れた。

A2 に分類されたキーセンテンスの特徴としては、情報のやり取りのキーセンテンスが多いことである。機能の範囲も幅広く見られて、CEFR の機能レベルの規準によれば、機能的に簡単な「感謝する」、「注意を引く」などの機能から、機能的に複雑な「禁止する」「妥協する」などの機能まで様々な機能が見られた。

B1 に分類されたキーセンテンスの特徴としては文法、語彙が難しくなってきたことである。具体的に、「結果補語」、「方向補語」、「“把”構文」、「受身表現」、「兼語文」など複雑な表現を用いた文が多く見られる。機能的な区別は特に A2 との区別ははっきりせず、CEFR の規準での簡単な機能から複雑な機能までの幅広い機能のキーセンテンスが見られた。

A1	A2	B1
①挨拶する ②自己紹介をする ③謝る ④人にものをあげる ⑤さよならを言う ⑥特徴について尋ねる ⑦好きなものについて述べる ⑧好きな行動について述べる ⑨状況について尋ねる ⑩人を紹介する ⑪金額について尋ねる ⑫妥協する ⑬許可を求める	①感謝する ②注意を引く ③経験について尋ねる ④予定を言う ⑤程度について尋ねる ⑥時間について尋ねる ⑦意見を述べる ⑧好きな行動について述べる ⑨順序について述べる ⑩比べる ⑪依頼する ⑫例を挙げる ⑬妥協する ⑭しなければならない ⑮禁止をする ⑯しなくて良いという ⑰招待する ⑱要求する ⑲理由を述べる ⑳数字について尋ねる	①感謝する ②手段について尋ねる ③能力について尋ねる ④意見を述べる ⑤条件をつける ⑥指示する ⑦しないでくれと言う ⑧助言する ⑨要求する ⑩希望を述べる

詳細については、「中国語会話モジュール 40 機能キーセンテンスのレベル分け表」(P5～)を参照されたい。CEFR でのレベル設定の記述と照らし合わせると、各レベルの機能記述は必ずしも CEFR でのレベル設定の記述と同じではないことが分かった。

### 3.3.2 言語機能で言語をレベル分けする可能性について

文法と語彙の差異による調整をすることなく、40 機能の内 35 機能において、複数のキーセンテンスは全て同じレベルに収まった。一方、同機能の複数のキーセンテンスが文法構造、もしくは語彙の難易度の影響を受け、異なる機能レベルに収まったものは、以下の 5 機能である。「感謝する」、「好きな行動について述べる」、「意見を述べる」、「順序について述べる」、「妥協する」である。

## 4. 考察

### 4.1 言語機能で中国語会話モジュールのキーセンテンスをレベル分けする可能性について

今回の中国語モジュール会話キーセンテンスのレベル分け結果、40 機能の内 35 機能において、複数のキーセンテンスは全て同じレベルに収まつたことから、初級者（A1、A2、

B1) の段階において、CEFR という枠組みの考え方、つまり言語機能で言語をレベル分けすることは、TUFS の中国語会話モジュールへも応用可能ということが言えるであろう。

#### 4.2 中国語特有な言語現象による言語機能の難易度の変化

今回の分析の結果を見ている限り、各レベルの特徴は必ずしも CEFR でのレベル設定の記述と同じではないことが分かった。この点に関しては、やはり中国語は中国語に特有な言語現象があるゆえ、中国語の言語機能の難易度も CEFR でのレベル設定の記述した機能の難易度と異なる結果となったと思われる。

例えば、CEFR の記述によれば、A2、もしくは B1 レベルに入れるべきである以下の 3 つの機能のキーセンテンスについて、

- \*「金額について尋ねる」 中国語：“～多少钱”
- \*「妥協する」 中国語：“没办法”
- \*「許可を求める」 中国語：“可以吗”

以上の機能のキーセンテンスの中国語は殆ど初級段階で学ぶ定型表現であるため、一番低いレベル A1 の枠に調整することができた。

また、CEFR でのレベル設定の記述に基づけば、「感謝する」のような低い機能レベルと思われる機能のキーセンテンスは語彙、文法の難易度の影響を受け、結果として、高い機能レベルに収まったものもあった。

例えば、「感謝」機能のキーセンテンスである① “谢谢” ② “太感谢你了” ③ “谢谢你帮我把钱包捡起来” の場合、①は定型表現である。中国語をまったく知らない人でも言えるような表現であるため、A1 に入れることができた。

② “太感谢你了” では、副詞の “太” と語氣助詞 “了” を前後呼応して用いることによって、習得難度が高くなり、特に語氣助詞 “了” は日本人学習者にとって、習得しにくい文法現象であるゆえ、A2 レベルに入れた。

③ “谢谢你帮我把钱包捡起来” では、目的語に当たる “你帮我把钱包捡起来” の部分は、“把” 構文と “捡起来” のような複合方向補語を用いているので、②よりも更に習得難度が上がり、HSK 試験では中級の文法能力範囲と記載されているので、B1 に入れた。

以上の分析から、やはり各言語はそれぞれ特有な言語現象を持つため、CEFR でのレベル設定の記述のみを用いてのレベル分けは限界があると思われる。従って、今後中国語の特有な言語現象を考慮に入れたレベル分け規準を作ることが期待される。

#### 5. まとめ

40 機能の中国語会話モジュールのキーセンテンスを CEFR の能力規準記述を含んだ基準に基づいて、レベル分けをした結果、84 個のキーセンテンスは A1、A2、B1 レベルに収まった。文法と語彙の差異による調整をすることがなく、同機能のいくつかのキーセンテンスは全て同じレベルに収まったものも大半を占めることから、初級者（A1、A2、B1）の段階において、CEFR という枠組みの考え方、つまり言語機能で言語をレベル分けすることは、TUFS の中国語会話モジュールへも応用可能ということが言えるであろう。

しかし、中国語は中国語に特有な言語現象を持っているため、現存の CEFR の能力規準記述のままではなく、中国語の特有な言語現象も考慮に入れて、機能とフォームなどの要素を考え合わせたレベル分けの規準を作ることが期待される。レベル分けの規準を精緻化することによって、会話以外の言語モジュールと CEFR の関連付けも行い、日本人の中国語学習者に何らかの貢献ができると考える。

## 参考文献

- Little、D. and B. L. Simpson、(2004) Using the CEF to develop an ESL curriculum for newcomer pupils in Irish primary schools. In K. Morrow (ed.)、*Insights from the Common European Framework*、. Oxford: Oxford University Press
- 安部一哉 (2004) 「TUFS D モジュール開発『試作版』—サイトの構築と他モジュールとの関連性」『言語情報学研究報告 1 TUFS 言語モジュール』、東京外国語大学大学院地域文化研究科 21 世紀 COE プログラム「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」
- 海野多枝・菊池富美子・野村愛 (2006) 「『日本語会話モジュール学習者ガイド』開発の基本方針と理論的背景」『言語情報学研究報告』No.10、東京外国語大学大学院
- 工藤洋路・小林善知・根岸雅史 (2006) 「ヨーロッパにおける CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) を利用した言語政策」『言語情報学研究報告 10 教材開発・評価・第二言語習得』、東京外国語大学大学院地域文化研究科 21 世紀 COE プログラム「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」
- 吉島茂、大橋理恵 (訳・編) (2004) 『外国語教育 II - 外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』朝日出版社
- 和田朋子 (2004) 「TUFS 言語能力記述モデル開発のための試み : Common European Framework (of Reference for Language) の考察」、『言語情報学研究報告』、No.5、東京外国語大学大学院。
- HSK 汉语水平考试大纲 (2003) 中国国家对外中国语教学指导办公室 汉语水平考试部编  
東方書店
- 赵秀敏・富田昇 (2003) 中国語検定 3 級・4 級受験手引き 白帝社

## 中国語会話モジュール 40 機能キーセンテンスのレベル分け表

### レベル A1

CEF のレベル A1 判定規準として記述されている能力記述文から一部抜粋〔言語行為の目的、機能、話題、場所、語彙等に関連する事項〕

基本的な挨拶をする / いとまごいの表現を使う / 元気かどうか聞く / 自分や他人を紹介する / どこに住んでいるか、だれと知り合いか、持ち物などの個人情報について質問したり答えたりする / 直接必要のある分野や身近な話題に関して簡単な意見を言う / 数、量、価格、時間を扱う / 特定な具体的な状況に関して基本的な語彙や言い回しのレパートリーを持つ

機能	例文	文型	特記事項
挨拶する	马老师、您好! (馬先生、こんにちは。)	定型表現	相手は先生なので、“您”(敬語)を使った表現である。よく使われて、且習得しやすいため、A1 に属するものだと判断した。
挨拶する	你好！ (こんにちは。)	定型表現	
自己紹介をする	我叫李明。 (李明と言います。)	～叫～	
自己紹介をする	我叫王刚。 (王剛と言います。)	～叫～	
謝る	对不起、 (ごめんなさい。)	定型表現	
謝る	很抱歉、 (すみませんが。)	定型表現	
人にものをあげる	这个给你。 (これあげるわ。)	给+～(人)	
人にものをあげる	这个也给你。 (これもあげます。)	给+～(人)	
さよならを言う	再见！ (じゃ、さようなら。)	定型表現	
さよならを言う	再见！ (さようなら)	定型表現	

特徴について尋ねる	长城怎么样? (長城はどう。)	~+怎么样	
特徴について尋ねる	动物园怎么样? (動物園はどう。)	~+怎么样	
特徴について尋ねる	香山怎么样? (香山はどう。)	~+怎么样	
好きなものについて述べる	流行歌曲也喜欢。 (それに流行歌も好き。)	~+也喜欢 主题文	
好きなものについて述べる	我对音乐有兴趣。 (僕は音楽も興味あるけど、)	对+~+有兴趣	
好きな行動について述べる	我喜欢打篮球、踢足球、游泳。 (バスケット、サッカー、水泳が好きだな。)	喜欢+动词文	
好きな行動について述べる	我只喜欢打排球。 (私が好きなのはバーボールだけ、)	喜欢+动词文	
状況について尋ねる	最近怎么样? (最近どう。)	~+怎么样	
状況について尋ねる	你姐姐好吗? (君のお姉さん元気?)	~+好吗	
人を紹介する	我来介绍一下。 (ちょっと紹介するわ。)	定型表現	
人を紹介する	这是张明。 (こちらは張明です。)	~+是+~	
人を紹介する	这是王晶。 (こちらは王晶です。)	~+是+~	
金額について尋ねる	这双多少钱? (これいくら。)	~多少钱 名詞述語文(值段)	

妥協する	没办法、 (仕方ありません、)	<b>定型表現</b>	
許可を求める	可以吗? (いいかな。)	<b>定型表現</b>	

## レベル A2

CEF の レベル A2 判定規準として記述されている能力記述文から一部抜粋〔言語行為の目的、機能、話題、場所、語彙等に関連する事項〕

指示を要求する・与える / 価格をたずねる / 買い物する / 食事の注文をする / 招待する / 申し出をする、受ける / 機嫌、調子を聞く / 事物や所持品について短い意見を言ったり、比較したりする / 社交的な短いやり取りを交わす / 仕事中や自由時間にすることをたずねる / 何をすべきか、どこに行くかを話して会う約束をする / 店、郵便局、銀行で簡単な取引をする / 旅行や公共の移動手段、バス・鉄道・タクシーなどについての簡単な情報を得る / 簡単な言葉でどのように感じているかを表現する / 毎日の周りの事柄について幅広い説明をする / 過去の行動や個人的な体験を話す / 好きなもの嫌いなものを説明する / 友人ととの議論で他の人の意見に賛成や反対をする

機能	例文	文型	特記事項
感謝する	太感谢你了。 (本当にありがとう。)	<b>太感謝～了</b>	文頭に副詞“太”と文末に語氣助詞“了”を用いているので、A2に入れられた。
注意を引く	你看、 (ほら、)	<b>定型表現</b>	FLA の環境では習得しにくいものだと判断したため、A2を入れた。
注意を引く	对了、 (そうだ、)	<b>定型表現</b>	FLA の環境では習得しにくいものだと判断したため、A2を入れた。
経験について尋ねる	你去过外国吗? (あなた外国に行ったことがある?)	<b>動詞+过</b>	

経験について尋ねる	那你喝过德国啤酒吧? (じゃ、ドイツビール飲んだことあるよね。)	<b>動詞+过</b>	
予定を言う	咱们什么时候见面? (何時に会う?)		
予定を言う	咱们在哪儿见面? (どこで会う?)		
程度について尋ねる	你知道长城有多长吗? (君長城ってどれくらいの長さか知ってる。)	<b>~+有多+形容詞</b>	
程度について尋ねる	司马台离这儿有多远? (司馬台ってここからどれ位離れているの。)	<b>~+有多+形容詞</b>	
時間について尋ねる	你学了多长时间了? (どれ位習ったの。)	<b>~+多长时间了</b>	
意見を述べる	我不同意这种看法。 (僕はそう思わないな。)	<b>我不同意+~</b>	
意見を述べる	我看这部电影很一般。 (僕はさ、この映画は平凡だったと思うよ。)	<b>我看+~</b>	
好きな行動について述べる	但是我更喜欢运动。 (スポーツの方が好きだな。)	<b>更喜欢+~</b>	
好きな行動について述べる	对别的运动都不感兴趣。 (他のスポーツには興味ないわ。)	<b>对~+不感兴趣</b>	

順序について述べる	我打算先到日本参加一个短期日语学习班、 (まず日本に行って短期の日本語学習クラスに参加して、)	<b>先+~</b>	
順序について述べる	然后在日本旅游一个星期、 (それから日本を1週間旅行して、)	<b>然后+~</b>	
比べる	足球跟棒球比起来、你喜欢哪个? (サッカーと野球を比べたらどっちが好き?)	<b>A 跟 B+比起来</b>	
比べる	我觉得棒球比足球有意思。 (野球のほうがサッカーより面白いわね。)	<b>A+比+B</b>	
比べる	我觉得网球比什么运动都有意思。 (どのスポーツよりもテニスの方が面白いわ。)	<b>A+比+什么+都 ~</b>	
提案する	你给他买一张古典音乐C D 盘、怎么样? (クラシック音楽のCDを1枚買ってあげたらどう。)	<b>~+怎么样</b>	
依頼する	请您填张表。 (表に記入して下さい。)	<b>请您+~</b>	“请”も、“您”も、丁寧な表現であり、 公的な場面で、お客様、もしくは目上の人によく用いる。
依頼する	能不能借给我一枝笔? (ペンを1本貸して下さいませんか。)	<b>能不能+~</b>	“能不能”は丁寧な依頼表現である。

依頼する	请您在这儿签个字。 (ここにサインして下さい。)	<b>请您+～</b>	“请”も、“您”も、丁寧な表現であり、 公的な場面で、お客様、もしくは目 上の人へ良く用いる。
例を挙げる	比如生鱼片、寿司、 荞麦面等等。 (例えば刺身、寿司、 蕎麦等ね。)	<b>比如+～+等等</b>	
例を挙げる	拌饭、泡菜、参鸡汤 什么的。 (ビビンバ、キムチ、サ ンゲタン等だね。)	<b>～+什么的</b>	
妥協する	我不能不去接朋友、 (友達を迎えに行かざ るを得ませんでした、)	<b>不能不+～</b>	
しなければ ならない	这本书必须在二十号 以前还给图书馆。 (この本は 20 日までに 図書館に返さなくては なりません。)	<b>必须+～</b>	
しなければ ならない	知道了。 (わかりました。)	<b>定型表現</b>	
禁止をする	下次不要再迟到了。 (今度は遅刻しないで ね。)	<b>不要+～</b>	
しなくて良い という	不用了。 (でもいいわ。)	<b>定型表現</b>	
しなくて良い という	需要我帮忙吗? (僕の助けが必要ですか?)	<b>需要+～+吗</b>	
しなくて良い という	不用了。 (大丈夫だと思うわ。)	<b>定型表現</b>	
招待する	那么你来我家吃饭怎 么样? (だったら私の所にご 飯を食べに来ません か。)	<b>怎么样</b>	

要求する	你还应该准备点儿吃的。 (それから食べるのも少し準備しなきゃ駄目だよ。)	<b>应该+~</b>	
理由を述べる	因为我生病了。 (病気だったんだ。)	<b>因为+~</b>	
理由を述べる	因为我要去医院。 (病院に行かなければいけないんだ。)	<b>因为+~</b>	
比べる	你最喜欢什么运动? (一番好きなスポーツは何?)	<b>最喜欢+~</b>	
時間について尋ねる	李刚、现在几点? (李剛君、今何時。)	<b>几点</b>	
数字について尋ねる	你的电话是多少? (君の電話番号はいくつ。)	<b>~+是多少</b>	
数字について尋ねる	你住几号楼? (君何号棟に住んでいるの。)	<b>~+動詞+几+~</b>	
数字について尋ねる	你的房间号码是多少? (部屋番号はいくつ。)	<b>~+是多少</b>	
場所について尋ねる	301 教室在哪儿? (301 教室はどこですか。)	<b>~+在哪儿</b>	
場所について尋ねる	厕所所在哪儿? (トイレどこにありますか。)	<b>~+在哪儿</b>	
好きなものについて述べる	我喜欢古典音乐、爵士乐、民歌、 (クラシック、ジャズ、民謡、)	<b>喜欢+~</b>	機能も、文法もやさしいが、“古典音乐、爵士乐、民歌”は語彙難易度の観点から見ると、A1 にしては、難しい語彙だと判断したため、A2 に入れた。

## レベル B1

CEF のレベル B1 判定規準として記述されている能力記述文から一部抜粋〔言語行為の目的、機能、話題、場所、語彙等に関連する事項〕

経験、できごと、夢、希望、野心を説明する / 意見や計画の理由、説明を短く述べる  
日常生活での問題に柔軟に対応する / 驚き、幸せ、悲しみ、興味、無関心などの感情を表現する / 会話や議論を続ける / 友人とのくだけた議論で個人的な見方や意見を示したり要求したりする / 他の人の見解に簡単なコメントを述べる / 返品する / 苦情を言う / 詳細な指示を与えながらやり方を説明する / 信念、意見、賛成、反対を丁寧に表現する  
日常生活範囲内の殆んどの話題、家族、趣味、仕事、旅行、時事など述べたいことを述べられる語彙を持つ

機能	例文	文型	特記事項
感謝する	'谢谢你帮我把钱包捡起来。 (拾ってくれてありがとう。)	谢谢你+～	“把”構文と方向補語のような複雑な文法を用いたため、B1に入れた。
手段について尋ねる	是骑自行车来的。 (自転車で来たんだって。)	是～的	
能力について尋ねる	你会打字吗? (タイプできるの?)	会+～	
能力について尋ねる	一分钟能打多少? (1分間にどれ位打てる?)	能+～	
意見を述べる	我觉得这部电影不错。 (私、この映画よかつたと思う。)	觉得+～	

意見を述べる	我反对用演员漂亮不漂亮来评价一部电影的好坏。 (私、役者の美醜で映画の善し悪しを評価することには反対だわ。)	<b>反对+~</b>	
条件をつける	要想真正学好一门外语、必须同时把文字学好。 (本当にきちんと一つの外国語を学ぼうと思うなら、同時に文字もきちんと学ばなければなりませんね。)	<b>要~、 必须~</b>	
指示する	要你明天下午参加一个会。 (君に明日会議に参加するようになって。)	<b>要~</b>	
しないでくれと言う	可是你最好不要上午来。 (午前中は遠慮して。)	<b>最好不要~</b>	
助言する	别忘了带上照相机。 (カメラ持つて行くの忘れるなよ。)	<b>别~</b>	
要求する	王刚、把你的雨伞带上吧。 (王君、傘持つようにな。)	<b>~吧</b>	
希望を述べる	今天晚上我想请你帮个忙。 (今日の夜助けてほしいのだけど。)	<b>想~</b>	

希望を述べる	他们说、希望我能接受他们的聘请、到他们公司工作。 (彼らが言うには、私が要請を受けて、この会社に仕事に来て欲しいそうよ。)	<b>希望+～</b>	
希望を述べる	我本来希望能有机会继续学日语。 (私、もともとは日本語を勉強しつづける機会があるよう希望していたの。)	<b>希望+～</b>	
順序について述べる	读完硕士再读博士。 (修士が終わったら博士に進学するわ。)	<b>～、再～</b>	“读完”は「結果補語」を用いたので、同機能のほかの文と違った B1 レベルに入れた。